
涙

麻人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

涙

【Nコード】

N8138G

【作者名】

麻人

【あらすじ】

母が死んだ。泣かない僕をどう思いますか？

(前書き)

始めから人が亡くなっています。
苦手な人は読まないで下さい。

母が死んだ。

僕が小学校の春休みに入った時。

唐突に。

原因は買い物の帰りに歩道橋の階段で足を滑らせ、頭を強打したから。

自業自得の上、あり得ないほどに間抜けな死に方だ。

目の前には白く太い骨。

こんなに頑丈そうな骨なのに。

少し打つたら死ぬなんて。

父が泣いている。声を出さずに。

祖父母も。叔母も。他の人も。

皆、泣いている。

寂しいと。悲しいと。

母の骨を前にして、一滴の涙すら浮かばない僕。

「かわいそうに。まだ死ぬことがどんなことか理解できてないんだ。」

誰かが泣かぬ僕を見て言った。

僕は死が理解できないほど子供では無いはずだ。

でも、涙は流れない。

きつと短すぎたのだ。

母と過ごす時間が。

母が自分の家族と過ごした時間。

父と出会ってから過ごした時間。

僕が生まれてから過ごした時間。

皆、僕の歳よりも遥かに長い時を母と過ごしている。

きつと、その長い時間の分、僕は寂しいとも悲しいとも思えないのだ。

唐突に羨ましくなった。

母の家族が。父が。

今の僕には想像できない長い時間を母と過ごしてきた皆が。

僕は、もう、一緒に過ごせないのに。

目頭が熱くなる。

でも、涙は流さない。

今度は、涙を流せないのではなく、流さないのだ。

今更、僕が泣き叫べば、父や皆が困ってしまうだろうから。

今は死を理解することのできない無知な子供のみまで。

母よ。

僕は貴女と過ごした時間よりも果てしなく長い時間を歩んで逝くでしょう。

歩み終えた時、泣かなかつた僕を褒めてくれますか？

それとも、冷たいと罵りますか？

褒められなくても、罵られても良い。

ただ、願わくば、

貴女と歩めなかつた時間の分だけ、抱きしめて下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8138g/>

涙

2011年1月16日00時24分発行